



平成 23 年度

地域やる気支援補助金交付事業実施報告書



長野市 地域振興部 都市内分権課

目 次

1	はじめに	1
2	概要	1
3	H23年度地域やる気支援補助金交付決定事業一覧	3

各地区事業

第一地区	第一地区 芸術文化によるコミュニティ創造事業	6
第五地区	第五地区 裾花川河川敷清美、運動場・広場整備プロジェクト	7
芹田地区	芹田地区 ふれあいコンサート	8
芹田地区	長野オリンピック開催記念「メモリアルタワー祭り」	9
三輪地区	向こう三軒両隣 支え合いのまちづくり事業	10
古里地区	ウェルカム三歳児プロジェクト	11
浅川地区	浅川地区をホタルの舞う里にしよう	12
朝陽地区	千曲川沿岸の探鳥会と河川敷清掃	13
長沼地区	歴史の街づくり 長沼城跡と一茶十哲	14
芋井地区	飯綱高原地域中核公園づくり事業 (オトナリ広場プロジェクト) PART II	15
篠ノ井地区	篠ノ井地区 文化財活用による地区活性化事業	16
川中島地区	お元気コール「まめってえかい」	17
川中島地区	子供たちの犯罪被害防止の切り札「地域安全マップ」を学ぶ事業	18
更北地区	ホタルの郷再生事業	19
七二会地区	七二会花いっぱい運動	20
信更地区	農村と都市の交流事業	21
信更地区	平成22年7月16日『信更』豪雨災害記録集刊行事業	22
鬼無里地区	鬼無里地区「まるごと」健康生き生きプロジェクト	23

1 はじめに

長野市では、市民の皆さんと市が対等・平等の関係の下、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という意識で協働してまちづくりを行う都市内分権を進めています。

この都市内分権を進めるため、平成 22 年度には全地区において地区を代表する住民自治協議会を設立いただき、地区課題を解決するため活動をいただいているところであります。

「地域やる気支援補助金交付事業」は、地区まちづくり計画等、地区の将来像に基づき地区課題の解決を目指して前向きに頑張る住民自治協議会のやる気を支援し、住民自治協議会が実施する地区ごとの特色あるまちづくりを促進するための補助制度として、平成 22 年度に創設され、1 千万円を予算化し、財政的な支援をしています。

平成 22 年度においては、14 地区住民自治協議会の 16 事業への支援を、平成 23 年度は、15 地区住民自治協議会の 18 事業への支援を行い、事業実施のために活用していただきました。

平成 23 年 10 月 25 日には、住民自治協議会の存在や、取組んでいる活動などを地区間で共有するとともに広く市民にアピールするため、“住民活動フォーラム 2011”を開催し、住民自治協議会の活動発表において「地域やる気支援補助金」を活用した事業の取組みを発表していただきました。

この報告書は、平成 23 年度に「地域やる気支援補助金」の交付決定となった事業について、住民自治協議会から提出された申込書や自己評価報告書等を基に、実施による成果や実施方法をまとめたものであり、地区まちづくりの参考としていただくために作成しました。

2 概要

(1) 補助率、補助金額及び補助交付年数

- ・補助率は事業実施に要する費用の内 8 / 10 以内
- ・補助上限額は 1 地区あたり総額 100 万円
- ・補助金の交付は、同一住民自治協議会に対し最長で連続 2 年とし、広く多くの協議会に交付し市全体のまちづくりを推進するため、次の 1 年間は交付申請することができない。

(2) 公開選考委員会

①目的

住民自治協議会が主体的に行うまちづくり活動は、各地区を代表する組織によるも

のであり、長野市と対等・平等な協働関係の下で、共に地域がきらめく元気なまちづくりを目指すものです。

公開選考の場を設けることにより、公明正大な選考にするとともに、多くの住民自治協議会の意識高揚も図られるため、関係者を含む多くの市民の面前で開催しました。

②選考基準

ア 住民合意（5点満点）

- ・地区の課題やニーズが地区全体のものとして把握され、事業の実施について住民の合意形成が図られているか。

イ 妥当性（5点満点）

- ・最終的に実現しようとする理想の姿を目指し、実施する事業が明確かつ妥当であるか。

ウ 創造性（5点満点）

- ・事業の具体的内容等に創意工夫が見られるか。

エ 計画性（5点満点）

- ・実施方法、スケジュール、収支予算に無理はないか。

オ 継続性（5点満点）

- ・事業効果の継続性・発展性をどの程度期待できるか。

カ 積極性（5点満点）

- ・事業の企画立案から実施に関して、どの程度熱意があるか。

③選考方法

ア 選考基準ごとに5段階評価しました。

イ 選考委員の内、合計が最低点と最高点を出した選考委員（各1名）の得点を除外し、残り5人の選考委員の得点合計を各住民自治協議会の獲得点数（150点満点）としました。

ウ 予算の範囲内で獲得点数の高いものから内定としました。

エ 同点の場合は、選考委員による多数決としました。

3 平成 23 年度 地域やる気支援補助金交付決定事業一覧

交付決定しました 15 地区住民自治協議会の 18 事業の概要は以下のとおりです。

地区名	事業名	事業概要
第一	第一地区芸術文化によるコミュニティ創造事業	Uターン、Iターンなどで移住する若者や、信州大の学生が存在するものの、新住民と、古くから住み続けている住民が、心を通わせる機会が少ないため、子ども演劇創作体験ワークショップ、地区住民参加による演劇創作体験、大学生対象のワークショップ補助員養成講座などを開催し、地域に住む様々な世代が交流することにより、地域コミュニティの強化を促す。
第五	第五地区 裾花川河川敷清美、運動場・広場整備プロジェクト	第五地区内の裾花川河川敷には運動場・ゲートボール場・広場・遊歩道等があるが、雑草・雑木等が繁茂し、気持ち良く使用することができないため、地域住民（児童から老人まで）が、安心して集い、遊び、運動し、憩うことができるように整備する。
芹田	芹田地区ふれあいコンサート	芹田地区は市内有数の大地区であり、ともすれば一体感が欠けがちになる傾向が見られるため、交流の場づくりとして身近な音楽をとりあげ、コンサートを開催することで一体感を深める。
芹田	長野オリンピック開催記念「メモリアルタワー祭り」	芹田地区は、人々が訪れる賑わいのある商店街と、閑静な住宅街、文化・教育・オリンピック等の公共施設を最大限活かした街づくりを目指して活動しており、長野市と芹田地区住民との協働による街づくりを実現するため、地域住民の協力を仰ぎ、多くの人達はその思いと熱意を共有しながら一体感をもって目的を達成させるために祭りを開催する。
三輪	向こう三軒両隣支え合いのまちづくり事業	三輪地区は日常生活で利便性が高く、教育機関が複数ある文教地区で、安全・安心なまちであるが、便利であるがゆえに近隣との付き合いの必要が乏しく、住民相互の顔が見えにくい人間関係であるため、住民の目が地域に向けられ、常に住民の目が行き届くまちづくりを進めることを目的に「防災・ウォーキングマップ」を多くの住民の手と足により作成し、地区内全世帯へ配布する。

地区名	事業名	事業概要
古里	ウェルカム三歳児プロジェクト	三歳になった記念に親子（もしくは家族全員）でJR三才駅を訪れる人が近年、急増しており、その範囲は全国におよんでいるが、地元として何の対応もしていないため、地区住民が写真撮影、周辺観光案内、駐車誘導などをして、訪れる人たちを歓迎し、ホスピタリティーあふれる地域とする。
浅川	浅川地区をホタルの舞う里にしよう	自然豊かな浅川地区でありながらホタルの発生が少ない。ホタルを増やし、忘れた存在のホタル情報を発信して、ホタルの魅力で「環境にやさしい地域づくり」、「心に残る故郷づくり」を目指す。
朝陽	千曲川沿岸の探鳥会と河川敷清掃	毎年2回実施している千曲川河川清掃に探鳥会を取り入れ、バードウォッチングしながら地区内に生息する鳥の生態を学び知識を深めるとともに、不法投棄ゴミを収集して河川的环境美化を推進する。
長沼	歴史の街づくり 長沼城跡と一茶十哲	長沼地区は寺・神社も多く、城下町の面影を色濃く残しているため、歴史のまちとして、長沼城跡探訪、一茶十哲句碑巡りなどを実施し、歴史を感じて楽しめるまちづくりを目指す。
芋井	飯綱高原地域中核公園づくり事業（オトナリ広場プロジェクト）PART II	住民交流・自治のための中核施設造りの第一歩として平成22年から「オトナリ広場」を整備し、素晴らしい自然の中で青空公民館活動を推進してきたので、平成23年度は飛躍させ、将来目標である子どもから高齢者までが集える地域中核公園”オトナリパーク”に繋げていく。
篠ノ井	篠ノ井地区文化財活用による地区活性化事業	平成23年度は市の観光重点地区キャンペーンとして「2011篠ノ井イヤー」の開催された中、篠ノ井地区は7地域から構成されているため、中山間地から市街地まで様々な特徴があるとともに、ニーズが異なっており、共通事業が成立しにくい環境にあり、地区内75の行政連絡区ごとに文化財の調査と説明板を設置し、「まちの教育施設」と位置付け、広く住民が共有し次世代に継承できるものにする。
川中島	お元気コール「まめってえかい」	「安否確認の声かけ」の住民ニーズが高いため、傾聴ボランティア講座修了生による有線放送を活用した定期コールによる高齢者の安否の確認と傾聴活動を実施する。

地区名	事業名	事業概要
川中島	子供たちの犯罪被害防止の切り札「地域安全マップ」を学ぶ事業	近年、地区内で犯罪が多発しているため、住民が犯罪の起こりやすい『危険な場所』がわかる『地域安全マップ』作りのアシスタントとなって、さらに地域の住民や子どもにも教えることにより、地域全体が犯罪に強いまちを目指す。
更北	ホテルの郷再生事業	都市化の進行により、蛍が飛び交うという風景がなくなるとともに、住民相互のふれあいや支えが希薄化してきているため、下氷鉤小学校内の水路を地域のホテル名所とするとともに、宝として残し、将来を担う子供達の心の故郷を大切にす感情の醸成を図る。
七二会	七二会花いっぱい運動	七二会地区は中山間地域で少子高齢化が進行し、遊休荒廃地が増加しており、年々活気を失い村の衰えを感じているとともに、地域の景観も損なわれているため、地区主要道沿線への花や桜の植樹、地域内の各家庭における自宅周辺への花や桜等の花木の植栽のより、地区内を花でいっぱいにする。
信更	農村と都市の交流事業	少子高齢化・人口減少・若者の地区外流出が顕著であり、虚空蔵山マレットゴルフ場周辺に地区住民等の手でワラビ菜園などを設けることにより、地区活性化のきっかけづくりとする。
信更	平成22年7月16日『信更』豪雨災害記録集刊行事業	平成22年7月16日に信更地区を襲った豪雨災害の記憶が風化してしまわないように、災害の様子を記録に留めることで、後世に語り継ぐ教訓とし、今後の地区防災訓練の教材とする。
鬼無里	鬼無里地区「まるごと」健康生き生きプロジェクト	高齢者と子育て世代の双方が元気であるために、主に高齢者を対象にした「生き行き健康教室」と主に子育て世代を対象にした「ココロとカラダのセミナー」という講座を全地区において、定期的を開催し、高齢者の心と体の健康を維持するとともに、出産や育児に関して不安や孤独を感じることがないような環境づくりを進める。

第一地区 芸術文化によるコミュニティ創造事業

事業実施の背景や事業目的

第一地区は、人口減少及び高齢化が進み、近隣住民同士のコミュニケーションが減少し、人と人とのつながりが弱くなってきている。

UターンやIターンなどで移住する若者や信州大学の若者などを含め、地域の様々な世代が交流する事業を展開することにより、地域のコミュニティの強化を促し、第一地区を文化発信・交流地域としてブランディングする。

事業内容

夏休み子ども演劇創作体験ワークショップ、大学生対象の演劇創作体験ワークショップ、地区住民参加による演劇創作体験（オーディション、稽古、公演）を行い、地区住民手作りの演劇創作を実施する。

【演劇公演会 会場の様子】



事業効果

8月に実施した、子ども演劇創作体験に多くの高齢者が鑑賞をしてくれた。

3月実施の公演の準備など、事業に参加している者の自らの手で演劇を作り上げたという実感を持つことができた。

地区内の子どもから高齢者まで参加することができ、また、地区外の参加者との交流が生まれ、親睦が図れた。

課題や今後の取組み

住民自治協議会の事業として実施したことにより、地区内に広く周知することができたが、より多くの地区住民の参加につながるよう取組みたい。

子どもから高齢者まで参加することができたことから、可能であれば継続し、芸術・文化の地域づくりを目指したい。

住民自治協議会名

第一地区住民自治協議会

担当者：竹本 次雄

電話：(事務局) 262-1217

事業費

1,798,480円

補助金額

983,000円

自己負担

244,780円

その他

570,700円

第五地区 裾花川河川敷清美、運動場・広場整備プロジェクト

事業実施の背景や事業目的

第五地区内の裾花川河川敷には、運動場、ゲートボール場、広場・遊歩道等があるが、雑草・雑木等が繁茂し、地区住民が有効に利用できない状況である。

また、河川敷が清美されていないと不法投棄が目立つ。

管理者でもある行政にも依頼していたが、数年に一回程度の除草作業であり、不十分であるため、地区住民の憩いの場所を確保するために、河川敷清美作業を実施する。

事業内容

草刈機、チェーンソー、草刈鎌等、作業に必要な道具を揃え、地区住民の協力により年に2回、河川敷の清美を行う。

清美後は、地区住民の日頃のウォーキングやゲートボール、地区の行事等に有効的に活用してもらえるように継続的に維持を進める。

【河川敷清美作業の様子】



事業効果

年2回の河川敷清美作業を実施し、作業した場所において、どんど焼き等の地区の行事、ノルディックウォーキング講習会の実施をすることができた。

作業に必要な機材を整備することができたため、住民自治協議会の必須事務として継続実施していきたい。

課題や今後の取組み

河川敷を有効に利用するためには、毎年繁茂する雑草、雑木を除去していく必要があるため継続して実施していく。

実施の際、今回の成果から作業内容、実施時間、作業場所の範囲等を見直し参加者の負担を減らすよう工夫し、参加する住民を確保するための周知を強化する。

行政とも連絡を取り、官民が一体となり実施をしていくよう計画を立案していく。

住民自治協議会名

第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会

担当者：健康福祉環境部会

電話：(事務局) 262-1512

事業費

936,479円

補助金額

749,000円

自己負担

187,479円

その他

0円

芹田地区 ふれあいコンサート

事業実施の背景や事業目的

縁あって芹田を生活の拠点とし、芹田を我がふるさととする住民同士が、日頃愛好している音楽を発表し合い、聴き合うことを通して、心を寄せ合い、より親睦・親善を深め芹田に住む喜びを深め合うことを願う。

各演奏を鑑賞して聞く喜びを味わい、また全員合唱する事を通して、住民相互の一体感や絆を更に深める。

事業内容

地区内の幼稚園、小学校、中学校、唱歌と童謡を愛する会、NPO麦っ子広場（障害者福祉団体）、ふれあい合唱団（公募団体）による合唱、吹奏楽、金管演奏コンサートを開催。

ふれあいコンサート実施記録冊子の編集、製本、配布を行う。

【ふれあいコンサートの様子】



事業効果

約 1000 名が参加し、演奏したり聴いたりすることとおして、コンサートのスローガンである「高めよう！地域の音楽文化。広げよう！地域の輪」に即して、大きな喜びと感動を味わうことができた。

幼稚園児から高齢者、障害者を含め区民相互の連帯感を一層深めることができた。

課題や今後の取組み

今後も継続して開催する。特に、平成 25 年度の第 10 回記念コンサートに向けては今から取り組んでいく。

第 8 回の開催をふり返り、草創期から過渡期を経ていよいよ定着期に達したと考えているが、更に充実発展期に向け、地道な手作りの良さを大事にしながら、演奏内容面の充実を工夫していく。

住民自治協議会名

芹田地区住民自治協議会

担当者：横内 孝夫

電話：(事務局) 264-5880

事業費

301,656円

補助金額

239,000円

自己負担

62,656円

その他

0円

芹田地区 長野オリンピック開催記念「メモリアルタワー祭り」

事業実施の背景や事業目的

長野オリンピック開催記念「メモリアルタワー」の存在を知っていただき、タワーを通じて子ども達の幸せとスポーツの発展、平和を願う長野市のシンボルとして、長野市を訪れた人々に世界大会を開催した都市にふさわしいまちづくりに繋がりたい。

更に、この事業が長野駅東口周辺の賑わいを取り戻すための起爆剤となって、広く芹田地区全域の街づくりに寄与し、併せて国際都市長野として躍進することを祈念して開催する。

事業内容

長野駅東口広場の「メモリアルタワー」からユメリア通りを中心に、長野オリンピック開催記念「メモリアルタワー祭り」として、メモリアルタワーのイルミネーション、芹田木遣り、獅子舞・御神輿、芸能大会、ノルディックウォーキング、長野駅東口周辺地域探索ゲーム、国際交流バザーを開催。

【メモリアルタワー祭り開会式】



事業効果

全国的にも冬季に開催するイベントとしてはあまり例のない中で、地区住民が厳寒にもかかわらず一丸となって、初めての大事業をやり遂げたことは、協議会の組織力と地区住民の潜在能力の高いことが確認できたうえ、今後の活動への大きな自信に繋がった。

課題や今後の取組み

次年度以降も事業の継続を図ることとして、「メモリアルタワー祭り委員会」を設置し、住民自治協議会の団体組織として活動していく。

地区住民の他に、企業、団体等に対して積極的に周知・PRに務め、協力して実施できる体制を目指し、事業継続のため、事業内容について更に前向きに工夫、検討していく必要がある。

住民自治協議会名

芹田地区住民自治協議会

担当者：石井 健之

電話：(事務局) 264-5880

事業費

954,981円

補助金額

761,000円

自己負担

193,981円

その他

0円

三輪地区 向こう三軒両隣 支え合いのまちづくり事業

事業実施の背景や事業目的

三輪地区は、日常生活で利便性が高く便利なまちであるが、それゆえ近隣とのつきあいが乏しく、災害時の支えあいが不安である。その課題を解決するために、多くの住民の参加と部会どうしの連携によって、普段から支えあいがあり、防災力・防犯力の強い地区づくりを目指す。

地区住民のニーズが高い「災害時の不安解消」と「健康づくり、仲間づくり」にこたえるため、防災マップとウォーキングマップを一枚の地図にまとめ、全世帯に配付する。

事業内容

住民が住み慣れた地域で健康で元気に住み続けたいという願いをかなえるため、災害時の避難場所・非難経路等の記載及びウォーキングコースを記載した「防災・ウォーキングマップ」の作成をして全戸配付。健康づくり活動支援として、ウォーキング、ノルディックウォーキングの運動講習会の開催。

【運動講習会・ウォーキングの様子】



事業効果

「防災・ウォーキングマップ」の全戸配付によって、地域への関心が高まり、災害時の避難場所の確認と防災意識の啓発が進んだ。また、部会事業を通じた仲間づくりやこどもの安全見守りパトロールなどが進捗している。

運動講習会を通して、仲間づくりの輪が広がりつつある。

課題や今後の取組み

作成した「防災・ウォーキングマップ」を基に、「減災」を目的とした事業が現実的に稼働するよう、自主防災組織の強化、支え合う地域性の構築、災害イメージネーション力を喚起し、災害に現実的に対応可能なまちづくりを進める。

住民自治協議会名

三輪地区住民自治協議会

担当者：前澤 いずみ

電話：(事務局) 225-9567

事業費

1,020,020円

補助金額

816,000円

自己負担

204,020円

その他

0円

古里地区 ウェルカム三歳児プロジェクト

事業実施の背景や事業目的

全国各地から三歳になった記念に、家族でJR三才駅を訪れる人が急増しているため、記念写真を撮りに来る家族を暖かく迎えることで、より素敵な思い出を抱いてもらい、そのことを通して長野市及び古里地区に対し好印象を感じてもらおう。

プロジェクトの活動を知らせることで、遠方の方々を地元民として「もてなす心」を地区内に広げ、明るい助け合いの地域を生み出す。

事業内容

地区住民へプロジェクトメンバーを募集し、土・日曜日及び祝日に三才駅にて、来訪者への写真撮影に関する案内、写真撮影、観光パンフレットの配布を通じた周辺の観光案内、子どもへひまわりの種のプレゼントをメンバーによるボランティア活動として取り組む。

【来訪者の写真撮影の様子】



事業効果

来訪者に予想以上に喜ばれ、その中で来訪者とのふれあいが生まれ、活動参加者にとっても楽しく、嬉しい気持ちが広がるものとなった。

地区住民の関心も強くなり、活動の発展方向についても、様々なアイデアが寄せられ、次第に地区住民の間に浸透していくことが感じられた。

課題や今後の取組み

来訪者を迎え入れるだけでなく、地区住民のなかに「おもてなしの心」を広げることを目指しているため、広報に力を入れて多くの人に活動の様子を知ってもらい参画してもらおう工夫をしたい。

来訪者からの要望が多い記念グッズの開発、ボランティアグループとしての活動資金を生み出す体制づくりの構築を推進する。

住民自治協議会名

古里地区住民自治協議会

担当者：駒澤 一雄

電話：(事務局) 295-9755

事業費

543,306円

補助金額

384,000円

自己負担

154,556円

その他

4,750円

浅川地区 浅川地区をホタルの舞う里にしよう

事業実施の背景や事業目的

“ホタルの舞う里”を目指し、自然豊かな浅川地区でホタルを増やし、忘れられた存在のホタル情報を発信して、ホタルの魅力で「環境にやさしい地域づくり」、「心に残る故郷づくり」に貢献する。

平成 22 年度に改修した浅川小学校ビオトープ水路を、よりホタルが棲みやすい環境となるよう植生づくりに取り組み、ホタル・カワニナの養殖、飼育を行う。鑑賞イベントの開催を通して、住民にとってホタルが身近な存在となる機会を提供していく。

事業内容

- ・浅川小ビオトープ小川へホタル幼虫放流(100 匹)と植生づくり、ホタル養殖
- ・ホタルマップの作成と全戸配布(2700 部)
- ・のぼり旗でホタル飛翔の周知
- ・ホタル鑑賞案内、鑑賞会の開催
- ・駒沢川のホタル発生数調査等の実施

【浅川小ビオトープ小川の様子】



事業効果

浅川小ビオトープ小川及び駒沢川で多くのホタルが発生した。

鑑賞者は、ホタルマップの配布、ホタル鑑賞案内、ホタル鑑賞会を実施したことから、期間を通じて約 500 人が見えた。

児童、住民へのホタル鑑賞機会の提供・案内ができ、ホタルが身近な存在となる情報の発信ができた。

課題や今後の取組み

ホタルが継続的に発生して事業が成り立つことから、浅川小ビオトープ小川のゲンジボタル生育の早期定着化を目指すとともに、駒沢川のホタル発生の調査、研究を継続して行う。

ホタル鑑賞が、地域づくり、故郷づくりに貢献できるよう、付加価値の高いイベントになることを目指し、ホタル鑑賞イベントの定着化を図る。

住民自治協議会名

浅川地区住民自治協議会

担当者：中澤 健次郎（浅川ホタルの会）

電話：（事務局）244-5165

事業費 220,146円

補助金額 176,000円

自己負担 44,146円

その他 0円

朝陽地区 千曲川沿岸の探鳥会と河川敷清掃

事業実施の背景や事業目的

地区役員のみで行っていた清掃美化活動に、探鳥会という興味、楽しみを持たせることにより、環境美化活動が、強制ではなく地区住民の自主参加により行われるようになることを目的としている。

事業実施に伴い、不法投棄やポイ捨てが無くなり、地域環境がより良くなることに繋がると考える。

事業内容

地区全戸に呼びかけ、屋島橋近辺に生息する野鳥を、講師の説明を受けながらバードウォッチングし、野鳥の生態と知識を深める。

探鳥会と共に河川敷のごみ拾いも行い環境美化に協力する。

春、秋と年2回実施。

【探鳥会と河川敷清掃の様子】



事業効果

年2回の千曲川河川敷清掃は以前から実施しており、地区の事業として定着しているが、探鳥会を一緒に実施することで清掃活動も楽しくなり、環境保護という意識をもつことができたことで、清掃をすることに新たな意義を見出す事業となった。

課題や今後の取組み

多くの地区住民に事業内容を知ってもらい参加していただけるよう、宣伝方法や申込み方法を工夫・検討する。

参加して楽しいと感じる人が増え、地区住民が自主的に環境整備に取り組んでもらえるよう、事業を継続していく。

住民自治協議会名

朝陽地区住民自治協議会

担当者：小林 博

電話：(事務局) 219-1068

事業費

459,950円

補助金額

360,000円

自己負担

99,950円

その他

0円

長沼地区 歴史の街づくり 長沼城跡と一茶十哲

事業実施の背景や事業目的

長沼は千曲川洪水常襲地であり歴史まで埋もれていたが、320年の時を経て、長沼城が解明されようとしている。

地区全体が文化遺産の地であると言われるほど歴史遺産が多く、城下町の面影を色濃く残し、一茶との関係も深い地域である。

これらの歴史的財産を活かし、歴史を肌で感じるまちづくりをめざし、地域の活性化に繋げたい。

事業内容

長沼城跡（本丸、三日月堀、狼煙台等）と城の周りに存在した寺、神社、侍屋敷、宿場町、遺跡、また一茶十哲の句碑等の位置を掲示する「歴史薫るまち長沼 長沼城跡と史跡・句碑」大型総合案内看板と、地区内 21ヶ所に長沼城跡の小型案内看板を製作し設置した。

【長沼城跡の小型案内板の様子】



事業効果

案内板を設置したことで長沼の紹介もでき、地区内外の人たちに長沼を色々な形で知ってもらえ、地域活性化へ繋がっている。

地域に眠っていた歴史的文化財を掘り起こし歴史が感じられるまちづくりに向け、一歩踏み出すことができた。地域内においても地域の歴史に関心を持つ人が増えており、歴史講座、企画展には大勢の参加がある。

課題や今後の取組み

長沼城や歴史の解明を進めるとともに、一茶の句碑建立、地域に残された数多くの作品の鑑賞ツアー等の企画考案、今回設置した看板を元に企画を展開し集客をはかり、地域活性化へ繋げていきたい。

文化遺産を、今後どう世に伝え、保存していくのかも課題となっていく。

住民自治協議会名

長沼地区住民自治協議会

担当者：松岡 武人

電話：(事務局) 217-2262

事業費

1,279,950円

補助金額

1,000,000円

自己負担

279,950円

その他

0円

事業実施の背景や事業目的

豊かな自然と貴重な文化財に恵まれた美しい環境が自慢であるが、近年少子高齢化、過疎化が進んでおり、地域の活性化が課題となっている。

地区の資産を活用した明るく元気なまちづくりを目指し、地域コミュニティ中核施設づくりの第一歩として平成23年度に“オトナリ広場”を整備。

各種住民活動の拠点となる多くの機能を有する、地域中核公園“オトナリパーク”へと発展することを将来の目標としている。

事業内容

中学生・高校生を中心として青空公民館活動を推進。地域の子供達や高齢者までの世代間交流事業を定期的実施し、交流範囲を拡大した。

オトナリ広場を拠点としたビオトープ造り、夏の大キャンプファイヤー、秋のコンサート、青空コミュニティレストラン、子ども雪祭り等を実施。

【ビオトープ環境学習の様子】



事業効果

夏の大キャンプファイヤーなどのイベントに地域の中学生がボランティアとして参加し、小学生や高齢者などとの世代間交流の橋渡し役を担ってくれた。

季節ごとのイベントに多くの地区住民が参加し、各学校の生徒間および保護者間の交流、親睦が進み、また、住民意識の高揚が見られた。

課題や今後の取組み

子どもにも大人にも好評なイベントの内容を更に充実させながら、より多くの地区住民が参加できるよう工夫し、自主財源と参加者負担金で、出来るだけ費用を掛けずに活動を継続する。

交流の範囲を広げていき、芋井地区全域での活動に育てたい。

住民自治協議会名

芋井地区住民自治協議会

担当者：及川 渡

電話：（事務局）262-1583

事業費

1,201,483円

補助金額

800,000円

自己負担

317,083円

その他

84,400円

篠ノ井地区 篠ノ井地区文化財活用による地区活性化事業

事業実施の背景や事業目的

篠ノ井は古くから交通の要衝として知られ、文化遺産が多いことから、本事業の文化財説明板設置事業と連携し、観光誘客キャンペーン 2011 篠ノ井イヤーとの相乗効果を引き出す。

特徴やニーズの異なる 7 地域で文化財を活用し、共通事業を実施することで、一体感の醸成を図るとともに、交流文化のまちを目指して、継続的な活性化に繋げるために地元のパワーを結集していく。

事業内容

各地区の文化財、伝承を調査。ニーズの順に地区住民と協働して製作した説明板を設置した。同時に文化財ウォーキングガイド&マップを製作し情報発信をする。

説明板めぐりコースを設定し、ウォーキングコースへ取り入れる。

地元ボランティアガイドの養成。

【説明板除幕式の様子】



事業効果

篠ノ井 7 地域が参加し調査を行うことで、今まで知らない事がわかり、地元の歴史・文化的資源の再発見を通して、人のつながりができ、地区の一体感につながった。

合計で 81 本の説明板を設置することができ、2011 篠ノ井イヤーの文化面での起点として貢献できた。また、文化財ウォーキングガイド&マップ (A 4・100 頁) を発刊販売し、広く情報発信することができた。

課題や今後の取組み

説明板建設は一区切りとなったため、今後は説明板と文化財ウォーキングガイド&マップを活用し、説明板めぐりや地元小学生の地域探検授業など、連携できる企画を発展させていきたい。

地元のボランティアガイドが育成できたので、ガイド活動の実践促進を図る。

住民自治協議会名

篠ノ井地区住民自治協議会

担当者：文化財説明板設置事業実行委員会

電話：(事務局) 285-0228

事業費 1,301,990円

補助金額 1,000,000円

自己負担 301,990円

その他 0円

川中島地区 お元気コール「まめってえかい」

事業実施の背景や事業目的

孤独化や無縁化が社会問題になる中、高齢者と繋がり、地域で見守り・支える共助意識の高いまちとしたい。

傾聴ボランティアを養成し、川中島有線放送電話を活用した定期コールによる声かけを独居老人に対して実施することにより、孤立感の解消、安否確認を行う。

地域の見守り支えあう意識を高め、つながりの輪を構築する。

事業内容

傾聴ボランティアを養成し、有線放送電話を使い独居老人等への声かけ運動を行う

- ・傾聴ボランティア養成講座・傾聴電話ボランティア養成講座を開催する
- ・ボランティアによる先進地の視察研修
- ・地域への広報活動を行う
- ・独居老人への地域の有線放送を使った定期コールを行う

【傾聴ボランティア養成講座】



事業効果

傾聴ボランティアを養成することができ、定期的に電話コールできる体制ができた。

地域の資源である有線放送電話が地域福祉に活用できることに、住民等から注目されるようになった。利用者からは、日々の生活の中で楽しみとなっているとの声が寄せられており、ボランティアのやりがい・喜びとなっている。

課題や今後の取組み

広報活動を見直し、この活動がボランティアによる気軽なおしゃべり場であるとのイメージを地域に浸透させていき、潜在している利用希望を掘り起こしていきたい。

事業に対する認知度が低く、利用者が少なかったが、話し相手がほしいという課題が大きい事は事実なので、有線放送以外の通信方法を使った「話相手活動」を研究し構築していきたい。

住民自治協議会名

川中島地区住民自治協議会

担当者：田中 稔枝

電話：(事務局) 050-3583-0890

事業費

495,248円

補助金額

396,000円

自己負担

80,148円

その他

19,100円

川中島地区 子供たちの犯罪被害防止の切り札「地域安全マップ」を学ぶ事業

事業実施の背景や事業目的

地区内で発生する、子ども・女性対象犯罪から、子どもや地域を守るために、犯罪の発生する可能性の高い「危険な場所」はどこかを身につける安全学習「地域安全マップ」づくりを学ぶ事業を行う。

犯罪者に犯罪の機会を与えない犯罪に強いまちづくりを目指し、安全学習を通して子ども達の被害防止能力を高める活動を行う。

事業内容

地区住民への講演会・講習会を開催し、マップ作りのアシスタント養成を行う。

各区において、子どもたちを対象にした「地域安全マップ」づくりの講習会を開催。

事前学習、フィールドワーク、マップの製作、発表までをまとめて行うことで、「危険な場所」がどこか、景色を見ただけでわかるように学習する。

【地域安全マップづくりの様子】



事業効果

講習を受けた子どもや大人は、どこへ行っても景色を見ただけで「危険な場所」がわかり、被害に遭わない基礎能力を習得できた。

地域の大人たちが地域の「安全・安心」への関心が高まった。「地域安全マップ」づくりを通じて発見した「危険な場所」を「安全な場所」に変える防犯環境改善の知識を得ることができた。

課題や今後の取組み

「地域安全マップ」づくりを通じて発見した「危険な場所」を「安全な場所」に変える防犯環境改善を事業として実施する。（犯罪の多発する駅周辺の駐輪場の防犯環境の整備・パトロール・啓発活動）

講習を体験することで被害防止が図れることから、引き続き各区で「地域安全マップ」づくりの講習を実施する。参加者を増やす方法を検討、工夫していきたい。

住民自治協議会名

川中島地区住民自治協議会

担当者：浅田 栄蔵

電話：(事務局) 050-3583-0890

事業費

618,818円

補助金額

464,000円

自己負担

154,818円

その他

0円

更北地区 ホタルの郷再生事業

事業実施の背景や事業目的

地域が新興住宅地として発展する中、稲里地区・小島田地区の核となっている下氷鉦小学校の一角を利用し、小学校の校章である「蛍」の復活を実現させ、地区住民、特に将来を担う子どもたちの思い出に残る「ふるさと」を「ホタルの郷」として後世に残したい。

また、蛍を核とした地区住民のふれあいの場を創出することを目的としている。

事業内容

継続的にホタルが飛び交うよう、水路への植栽、落葉対策など、水路及び水路周辺的环境整備を行う。学校内でのカワニナ飼育、ホタル幼虫の孵化飼育も行う。

小学生とともに、カワニナ、ホタルの幼虫の放流式を開催。

ホタル祭り（鑑賞会）を開催し、住民相互のふれあいの場を創出する。

【ホタルの幼虫放流式の様子】



事業効果

ほたるを通して地域へ話題提供ができた。地域内だけでなく地域外の方も大勢鑑賞に訪れており、地域に対し元気と話題を与えることができた。自助、共助、公助の役割分担が明確となり回転した。地域の理解が深まり、自然を大切にする心の醸成、特に子供達には、心に残る「故郷づくり」の一助になったと考えている。

課題や今後の取組み

ホタルの定着には10年位必要と言われている。学校内での飼育、ホタル幼虫の孵化飼育等、理科の教材として取り組む中、住民自治協議会としてホタルの郷に相応しい環境整備を行い、地域の名所に育てたい。

全戸案内、有線放送での案内をしているが、更に大勢の人に鑑賞してもらえよう、もっと情報を流しPRを行っていく。

住民自治協議会名

更北地区住民自治協議会

担当者：大屋 祝康

電話：(事務局) 286-2335

事業費

533,843円

補助金額

363,000円

自己負担

170,843円

その他

0円

七二会地区 七二会花いっぱい運動

事業実施の背景や事業目的

七二会地区は中山間地域で少子高齢化が進行し、遊休荒廃地が増加している。年々、活気を失い村の衰えを感じ、また地域の景観も損なわれている。この傾向に歯止めを掛ける「元気づくり」が求められているため、四季の花が咲き乱れ、「元気で明るい七二会」「七二会いい所」を創り上げるため、地区主要道沿線に花を、荒廃地では雑木を伐採し桜の植樹を行い、各家庭においては自宅周辺に花や桜等の花木を植栽してもらう。

事業内容

学校施設周辺と地区主要道路沿線にプランターを並べる。
七二会中央線に、ベルト花壇を設置し、花と花木を植栽する。
景観の改善を図るため、荒廃地の雑木を伐採し、桜の植樹を行う。

【花の植栽作業の様子】



事業効果

遊休荒廃地の解消ならびに地域の環境美化・景観美化へつながった。
花木の植栽、荒廃地の雑木の伐採作業から植樹まで、地区住民の協働作業により絆の醸成が図れた。
道路景観の保持が図られ、ごみのポイ捨てが減少した。

課題や今後の取組み

単年度の事業規模が小さいことから、継続が必要なため、目的を理解してもらい地域全体の運動として、更に浸透する事が必要である。
未来を担う子ども達の参加を増やす工夫など、事業を拡大継続すると共に新規事業への取組みを実施する。
基盤整備を実施した後は、地区全体の協働作業により維持管理をしていく。

住民自治協議会名

七二会地区住民自治協議会

担当者：石坂 隆男

電話：(支所) 229-2311

事業費

679,569円

補助金額

480,000円

自己負担

199,569円

その他

0円

信更地区 農村と都市の交流事業

事業実施の背景や事業目的

信更地区は、少子高齢化と人口の減少が進み、若者の地元離れが顕著であり、住民だけで地元を活性化するには限界がある。

そこで、豊かな自然と風土を活かしつつ、更に付加価値を付けて、都市部からの誘客を推進し、活性化につなげていきたい。

以前から整備を進めている虚空蔵山マレットゴルフ場の集客が増えないので、周辺にワラビ菜園の造成とキノコの原木の付設を行う。

事業内容

5月から6月に農家民泊で訪れる県外中学生とともに、虚空蔵山マレットゴルフ場周辺にワラビ菜園の造成を行い、里山体験をしてもらう。

キノコの原木確保のための伐木により、ワラビ、キノコの収穫を可能にし、都市部からの誘客を図る。

【ワラビ菜園の造成作業の様子】



事業効果

関西地区の修学旅行での「民泊」で、農業体験の実施場所として定着した。

ワラビ採り、キノコの駒打ちなどを体験した子ども達や学校側にも好評であった。

荒地の整備、伐木などを行うことで環境が整備された事により、有害鳥獣の出没の抑制にもつながった。

課題や今後の取組み

今回は主にハード面での活用であったが、ソフト面（誘客等）の基礎作りにも効果があったことから、今後、ソフト面を重点とし、引き続き農業体験場所と位置付け、更に誘客効果を高めるため、「健康と食」のセットでのイベント等、別の付加価値（企画）を検討していきたい。町内外への発信を活発にしていきたい。

住民自治協議会名

信更地区住民自治協議会

担当者：番場 敏次

電話：(事務局) 050-3583-2071

事業費

249,900円

補助金額

199,000円

自己負担

50,900円

その他

0円

事業実施の背景や事業目的

平成 22 年 7 月 16 日に信更地区を襲った豪雨災害で数多くの被害が発生したが、時間の経過とともに人々の記憶が風化してしまうことを防ぎたい。

後世に教訓を活かすため、豪雨災害記録等の資料とともに語り継ぐことで、災害への備え（心構え）及び住民の防災に対する意識啓発に役立てる。

事業内容

住民自治協議会だよりで地域住民に呼びかけ寄せられた災害時の写真と、区長等関係者の災害当日の状況記録文及び体験談から「豪雨災害記録集」を製作。地区全戸と関係機関に配布を行う。

各区で開催する防災訓練にて、写真パネルの展示し、住民の防災に対する意識啓発に役立てる。

【記録集編纂作業の様子】



事業効果

豪雨災害記録集は梅雨や台風の時季に各家庭で見えていただくよう、地区全戸に配布でき、中山間地特有の地形のため、日頃から災害に備えることの重要性を住民に感じてもらうための教科書的な資料となった。豪雨災害記録集の編纂過程において、住民相互の助け合いにより、人的被害を防いだことが明らかになるなど、有意義な事業となった。

課題や今後の取組み

豪雨災害記録集のまとめを今後作成予定の地区防災マップづくりに活かす。
防災訓練時に被災写真パネルを継続的に展示し、住民に災害の教訓を感じてもらいたい。

将来的には写真パネルの入れ替えも行いたい。

住民自治協議会名

信更地区住民自治協議会

担当者：小山 悦夫

電話：(事務局) 050-3583-2071

事業費

301,110円

補助金額

240,000円

自己負担

61,110円

その他

0円

鬼無里地区 「まるごと」健康生き生きプロジェクト

事業実施の背景や事業目的

高齢者と子育て世代の双方が元気でいられることを目的とし、主に高齢者を対象とした「生き行き健康教室」、主に子育て世代を対象とした「ココロとカラダのセミナー」、また、昼間集える高齢者と若い世代の交流のため「3世代いきいきまつり」を開催。

お茶をのみながらの気軽な世代交流や、古き良き時代の知恵や苦勞話しを聞いて子育てのヒントとしたり、高齢者には楽しい時間を過ごしていただく。

事業内容

「生き行き健康教室」は、おおむね65歳以上の男女を中心に、ヨガインストラクターを講師に何歳からでも生活に取り入れられる健康づくりの方法を身につける。「ココロとカラダのセミナー」では、毎月テーマを決め学習と体操を行う。「3世代いきいきまつり」は、世代間交流、昔あそびの体験を行い、語り合いの場を設ける。

【3世代いきいきまつりの様子】



事業効果

世代に合わせた講座の開催により、対象者に合った内容ができ、自分でできる方法を取り入れることで医者に行く回数が減った、自分の生活を振り返ることで体調がよくなったなど改善の声が聞かれ、参加者のこころと体の変化が見られた。日頃交流しにくい世代が集い、語ることでお互いの情報を把握し共有でき、地域の活気につながった。

課題や今後の取組み

世代間交流により地域の声が聞けたことを生かし、地域の課題をより反映した事業としていくために、プロジェクト会議を強化して健康で元気な地域づくりの核となるよう活動していきたい。

今後、地域で必要な事業として定着していくために、住民自治協議会での費用の確保を検討していきたい。

住民自治協議会名

鬼無里地区住民自治協議会

担当者：古畑 真規子

電話：(事務局) 256-2213

事業費

452,942円

補助金額

358,000円

自己負担

94,942円

その他

0円